

学会誌執筆要項（引用・参考文献について）

■ 引用・参考文献リストの書き方

< 学術誌の中の論文の場合 >

著者名(出版年). 論文名. 雑誌名, 巻, 号, pp.始ページ-終ページ.

- 日本語論文の場合…論文名を「」で囲み, 雑誌名を『』で囲む。
- 外国語論文の場合…雑誌名と巻を斜体にする。

清水邦彦(2013). 「数学的な表現の主體的な活用を促す指導の研究(6) —書きことばの困難性からかくことの困難性への拡張による提起—」. 全国数学教育学会誌『数学教育学研究』, 第 19 巻, 第 2 号, pp.1-13.

青山和裕(2013). 「日本の統計教育における系統性構築に向けた検討と提案」. 日本数学教育学会誌『数学教育学論究』, 第 95 巻, pp.1-8.

佐伯昭彦・土田理・末廣聡・中谷亮子・松寄昭雄(2013). 「歩く事象の変化とグラフを関連づける表現力を高めるための実験授業 —他者を意識した「グラフの伝書」作り—」. 日本数学教育学会誌『数学教育』, 第 95 巻, 第 11 号, pp.2-10.

Mejia-Ramos, J. P., & Weber, K. (2014). Why and how mathematicians read proofs: further evidence from a survey study, *Educational Studies in Mathematics*, vol.85, no.2, pp.161-173.

< 本の場合 >

著者名(出版年). 書名. 発行所.

- 日本語の場合…書名を『』で囲む。
- 外国語の場合…書名を斜体にする。
- 訳本の場合…原著者名をカタカナで記すとともに, 訳者名を明記する。

岩崎秀樹(2007). 『数学教育学の成立と展望』. ミネルヴァ書房.

Ernest, P. (1998). *Social constructivism as a philosophy of mathematics*. Albany, New York: SUNY Press.

ビショップ, A. J. (2011). 湊三郎(訳). 『数学的文化化—算数・数学教育を文化の立場から眺望する—』. 教育出版.

< 本の中の 1 章の場合 >

著者名(出版年). 章名. 編者名編, 書名(pp.始ページ-終ページ). 発行所.

- 日本語の場合…章名を「」で囲み, 書名を『』で囲む。
- 外国語の場合…書名を斜体にする。

金見功(1995). 「幼児の算数指導」. 日本数学教育学会編, 『数学学習の理論化へむけて』 (pp.3-16). 産業図書.

Clements, M. A., Keitel, C., Bishop, A. J., Kilpatrick, J., & Leung, F. K. S. (2013). From the few to the many: Historical perspectives on who should learn mathematics. In Clements, M. A. et al. (Eds.), *Third International Handbook of Mathematics Education* (pp.7-40). New York, U. S.: Springer.

■ 引用・参考文献リストの並べ方

- 日本語文献，外国語文献の順にする。
- 日本語文献は，第一著者，第二著者，…の苗字の五十音順に並べる。
- 外国語文献は，第一著者，第二著者，…の Family name（苗字）のアルファベット順に並べる。

■ 論文中での参照・引用の仕方

<要約の上，参照する仕方1>参照する文献情報を文末に置く場合

経験的抽象と比べた場合の，数学的抽象のもつ決定的な性質は，現実世界に必ずしも始めから存在していない関係を認識主体が心的に構成するというものである(中原, 1995, p.38)。

<要約の上，参照する仕方2>参照する文献を主語にする場合

公理論的数学の起こりについて，たとえば，佐々木(2005, pp.43-51)は，古代ギリシャ人の批判的議論を好むという精神性に起因すること，さらに古代ギリシャの政治制度である民主制がその背景にあることを指摘している。

公理論的数学の起こりについて，たとえば，佐々木(2005)は，古代ギリシャ人の批判的議論を好むという精神性に起因すること，さらに古代ギリシャの政治制度である民主制がその背景にあることを指摘している(pp.43-51)。

<引用の仕方1>文献の一部を，段落を変えて引用する場合

平林(1987)は，数学教育学の性格について，次のように述べている。

数学教育学は，いふなれば実践学である。その課題はつねに教育実践のなかから意識され，その成果はつねに教育実践に反映させねばならない。従って，数学教育の現状分析ということは，数学教育学研究の出発点において，欠くことのできないものである(平林, 1987, p.28)。

この規定から，数学教育学研究において取り組むべきいくつかの課題が浮き彫りになる(...)

<引用の仕方2>語句や一節を，「 」を使って引用する場合

数学とは何かという難題に対する一つの立場が，「数学はパターンシの科学」(デブリン, 1995, p.10)というものである。